

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 根寄生雑草耐性作物のテーラーメイドな創成

2. 個人研究者名

若林 孝俊（大阪公立大学 大学院農学研究科 特任研究員）

3. 事後評価結果

本 ACT-X 研究は、ストライガ、オロバンキなどの根寄生雑草が宿主の根から分泌されるストリゴラノイド類を宿主認識のシグナルとして寄生する分子メカニズムを解明することを目的として研究が開始されている。典型的、非典型的ストリゴラノイドの生合成遺伝子の同定に成功しカタログ化が進むなど、ACT-X で掲げた目標に到達し、顕著な研究成果を挙げたと高く評価できる。国際的学術論文も 3 本掲載に至っており、研究が着実に成果に結びついた証左であるといえる。

また、本研究の内容を発展させた研究課題がさきがけに採択されたことで大きな飛躍に繋がったと考えられる。領域会議での最終報告においても今後の研究に対する意気込みを含めてしっかり報告がなされており、将来、寄生雑草の問題を克服するためのテーラーメイドな制御法の確立を担う研究者として期待する。